

研究課題名	院外内因性心停止に対する死後 CT の死因診断能に関する検討
研究責任者名	医系科学研究科放射線診断学 教授 栗井 和夫
研究期間	2023 年 7 月 11 日(倫理委員会承認日)～ 2025 年 12 月 31 日
対象者	2018 年 1 月から 2022 年 12 月の間に、広島大学病院で死因の評価目的に死後 CT が撮影された患者さん
意義・目的	<p>従来の剖検は、死因を特定するために古くから行われている手法であり、医学知識や医療訓練、正確な死亡率統計、疫学データベース、治療および診断の改善に貢献しています。しかし、1980 年代以降、世界的に剖検率の低下が顕著になり、多くの国で剖検率が死亡者数の 10%未満に達していません。</p> <p>そこで近年、解剖に代わる死因の究明方法として、死後 CT が広く撮影されています。死後 CT は従来の剖検と比較して短時間で行うことができ、かつデータ保存が容易であるという利点があります。これまで死後 CT の死因診断能についてはいくつかの研究が行われていますが、対象や検討方法によって、その結果にばらつきがみられています。</p> <p>本研究の目的は、院外内因性心停止に対する死後 CT の死因診断能について評価し、死後 CT の有用性もしくは現在の課題を明確にすることです。</p>
方法	2018 年 1 月～2022 年 12 月に本院で死因の評価目的に死後 CT が撮像された患者を対象とします。本学で既に撮像されている死後 CT データ(水平断、スライス厚 5mm)を用いて、放射線科医 2 名による読影を行います。死因の診断に関しては、確定的な所見あり/示唆的所見あり/診断不可の 3 群に分けて評価します。その他に、診療録より年齢、性別、臨床診断(死亡診断書に記載された直接死因)、最終健常時刻から死後 CT 撮像までの時間も評価します。
共同研究機関	ありません。
試料・情報の管理責任者	医系科学研究科放射線診断学 教授 栗井 和夫
個人情報保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくないご遺族の方はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5257

広島大学病院放射線診断科 助教 福本 航